

令和 5 年度 島根県 英語教育改善プラン

目標

CAN-DOリスト形式による学年ごとの学習到達目標を作成し、5つの領域における付けたい力を明確にし、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①・・・語活動を通して指導することは浸透しつつある。
- ②・・・約 9 割の学校が「話すこと」を評価するためのパフォーマンスを実施している。

未だ改善が必要な点

- ①・・・CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定し、公表、活用している学校の割合が少ない。
- ②・・・言語活動充実のためにICTや学習者用デジタル教科書を活用している学校が少ない。

2. 分析

①・・・目標が理解されて授業が行われている。小学校外国語科がめざす大きな方向性は伝わっている。

②・・・多くの学校で、「話すこと」について、指導と評価が行われている。

①・・・CAN-DOリスト形式による学習到達目標の必要性、設定方法、活用方法が理解されていないために設定や活用が進んでいない。

②・・・適切な活用方法についての知識や経験がない。地域によっては、インターネットの接続などの環境面に課題がある。

3. 施策・事業

①・・・参考資料『「CAN-DOリスト形式による学習到達目標」の設定と実施』の配付・活用

小学校外国語科において、身に付けさせたい力を焦点化し、指導と評価の一体化を実現するために作成し、配付した。説明動画の中で、話すことのパフォーマンステストのあり方についても事例をあげて説明している。

①②・・・小・中・高等学校の連続性と系統性をもった英語指導力向上研修の実施

小・中・高等学校の連続性と系統性をもった学習指導のあり方について同一市町村内の研究校を指定し検証を行い、その成果を全県に普及する。研究校の授業づくりの段階から県内の大学教授の指導助言を受けながら、めざす授業の方向性を模索する。CAN-DOリスト形式による学習到達目標をもとに学習計画を立て、授業を公開し、研究協議の場をもつ。

①②・・・小中学校外国語教育講座の実施

「目標と指導と評価の一体化」を図った授業づくり、学習評価の進め方について、実践報告や講義・演習を通して理解を深め、教科指導力の向上を図る。CAN-DOリストをもとにどのように授業を組み立て、どのようなルーブリックを子どもたちに提示し、それをもとにどのように振り返りに取り組ませているのか等についての実践事例を紹介する。

①②・・・小学校英語専科教員連絡協議会の実施

授業改善を進めるために、各小学校における外国語の授業にかかる課題と成果を共有し、英語専科教員同士で相談できるネットワークを構築するためにオンライン協議会を実施する。

※小学校英語採用の実施

小学校教諭普通免許状所有者に加え、ア) 中学校又は高等学校英語免許状の保有者、イ) 2年以上のALT経験者、ウ) 2年以上海外で英語を使用した勤務経験または留学経験のある者、エ) CEFR B2以上保有者、オ) その他高い指導力が認められる者のいずれかの要件を満たす者を採用時の要件としている。

令和 5 年度 島根県 英語教育改善プラン

目標

CAN-DOリスト形式による学年ごとの学習到達目標を活用し、5つの領域における付けたい力を明確にし、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①・・・生徒の英語力の状況は少しずつではあるが向上している。
- ②・・・昨年度に比べ、CAN-DOリストを公表、達成状況の把握をしている学校が増えた。

未だ改善が必要な点

- ①・・・教師の英語使用、生徒による言語活動が十分に行われていない。
- ②・・・CAN-DOリストの設定、公表、達成状況の把握を実施していない学校がある。
- ③・・・小中連携が進んでいない。
- ④・・・教師の英語力が十分であるとは言えない。

2. 分析

- ①・・・研修等で学んだことをもとに、各校で授業改善が進んでいる。
- ②・・・研修等に参加し、自ら学んでいる教員が所属する学校では、改善が進んでいる。

- ①・・・語彙や文法等の個別の知識を定着させることのみに関心を置いている教師が少なからずいる。
- ②・・・CAN-DOリストを設定し、活用する良さが理解されていない。
- ③・・・多忙なため、校区内の小学校と交流をする時間が確保できていない学校が多い。
- ④・・・多忙なため、また、受験会場までの距離等の地理的な要因もあってか改善が進んでいない。

3. 施策・事業

①③・・・授業改善に係る説明動画の配付

全国学力調査や県学力調査等で判明した課題を改善するために、授業づくりについて提案する動画を作成し、配付する。

①②③・・・小・中・高等学校の連続性と系統性をもった英語指導力向上研修の実施

小・中・高等学校の連続性と系統性をもった学習指導のあり方について同一市町村内の研究校を指定し検証を行い、その成果を全県に普及する。研究校の授業づくりの段階から県内の大学教授の指導助言を受けながら、めざす授業の方向性を模索する。CAN-DOリスト形式による学習到達目標をもとに学習計画を立て、授業を公開し、研究協議の場をもつ。

①②③・・・小中学校外国語教育講座の実施

「目標と指導と評価の一体化」を図った授業づくり、学習評価の進め方について、実践報告や講義・演習を通して理解を深め、教科指導力の向上を図る。CAN-DOリストをもとにどのように授業を組み立て、どのようなルーブリックを子どもたちに提示し、それをもとにどのように振り返りに取り組ませているのか等についての実践事例を紹介する。

①②③④・・・市町村単位での出前講座、訪問指導時の教科部会を実施

各市町村の教育研究会外国語部会に呼びかけ、各研究会の困り感に寄り添った講義を行うとともに、改善点について伝える。また、初任研（経験者研）等の訪問時に教科部会を開いてもらい、改善点等を伝える。

令和5年度 島根県 英語教育改善プラン

目標

CAN-DOリスト形式による学年ごとの学習到達目標を活用し、5つの領域における付けたい力を明確にし、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

1. 現状

改善が進んだ点

①・・・パフォーマンステストで、スピーキングテスト・ライティングテスト両方を実施した割合が増えている。

②・・・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学科の割合が増えている。

未だ改善が必要な点

①・・・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している、または、達成状況を把握している学科の割合を高める必要がある。

②・・・小・中・高等学校の連携をより進める必要がある。

③・・・教師の英語力をより高める必要がある。

2. 分析

①②・・・新学習指導要領実施に向けた各研修をとおして、指導と評価の一体化に向けた、指導の改善や学習評価の改善が図られてきている。

①・・・①②の反面、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標が教員と生徒の間で十分に共有されていない学校や、また、設定した数値が学習評価に十分に生かされていない学校がある。

②・・・特定の地域あるいは単年度のみでの連携で、県内それぞれの地域での連携が継続的になされていない。

③・・・ICTを活用した授業改善等が図られつつあるが、それに伴い、自己研鑽に充てる時間が十分に確保できない状況がある。

3. 施策・事業

①②①・・・新学習指導要領実施のための高等学校外国語科授業改善研修の実施

授業場面で効果的に使用するために、ICT機器の利活用を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、新学習指導要領で求められる学習評価についての理解を深める。

②・・・小・中・高等学校の連続性と系統性をもった英語指導力向上研修の実施

小・中・高等学校の連続性と系統性をもった学習指導のあり方について同一市町村内の研究校を指定し検証を行い、その成果を全县に普及する。研究校の授業づくりの段階から県内の大学教授の指導助言を受けながら、めざす授業の方向性を模索する。CAN-DOリスト形式による学習到達目標をもとに学習計画を立て、授業を公開し、研究協議の場をもつ。

①②③・・・県内英語科教員で構成される研究会との連携

県内の英語科教員で構成される島根県高等学校英語教育研究会の理事会や研究大会において、島根県の現状を伝えるとともに、改善につながるよう支援や助言、情報提供を行う。